

# 戦争法廃止

# 歩み止めない

安保関連法案（戦争法案）に反対する運動で大きな力を発揮した学者と学生が協力して25日、東京都千代田区の法政大学臨海ホールでシンポジウムを開きました。題して「脱路に立つ日本の立憲主義・民主主義・平和主義—大学人の使命と責任を問い直す」。開場前から100人以上が並び、会場いっぱい約1300人が学者と学生の発言に聞き入りました。↓関連③④面

## 1300人の熱気 東京

シンポジウムは、安全保障 安保法を賛成させない、廃止を主張する学者の 止し、閣議決定も無効にするため、国会に多数派を構築（シールズの会）の共催、「立憲 築かないといけない」と強調デモクラシーの会」の協力 調しました。

小林節慶応大学名誉教授 司会者の佐藤学・学習院 はない得票で7割の議席を得た。次の選挙で野党が共同 「戦争法の成立は国の形を して8割の議席をとれば、 変える懸念だが、その運動 すべてが変わる」と展望を 中で主権者として声を上 語りました。

長谷部恭男早稲田大学教 授は「安倍首相は憲法につ いての自分の好き嫌いを政 治に持ち込んでいる。大変 危険だ」と批判しました。

基調報告などで合計10人 の学者・弁護士、5人の学 生が発言しました。

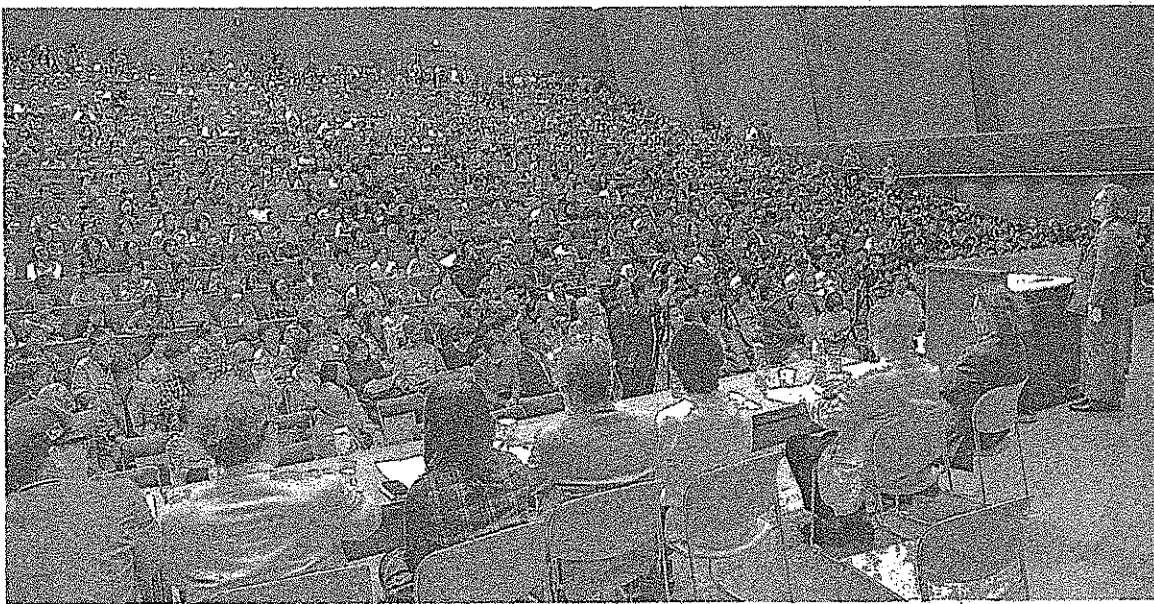
広渡清吾専修大学教授・ 前日本学術会議会長は「新 臆病な私がマイクを握りま

した。思考し行動すること だ。思えらる。空気を読ん でいては空気を換えられな い」と自分自身の変化を語 りました。シールズ琉球の 豊島鉄博さん（専修大学2 年生）は、沖縄の運動にふ りました。代行政は、安倍政権の強行採 とを表明しました。

10/26 五 社

れ、「保革を超えたオール 決を批判し」（戦争法は） 沖繩を思い出ささい。私た 成立しても違憲の法律は無 効です」と指摘しました。

佐藤氏は、12月6日に東 山岸良太日本弁護士連合 会憲法問題対策本部部長 京・日比谷野外音楽堂で集 会を開き、パレードするこ



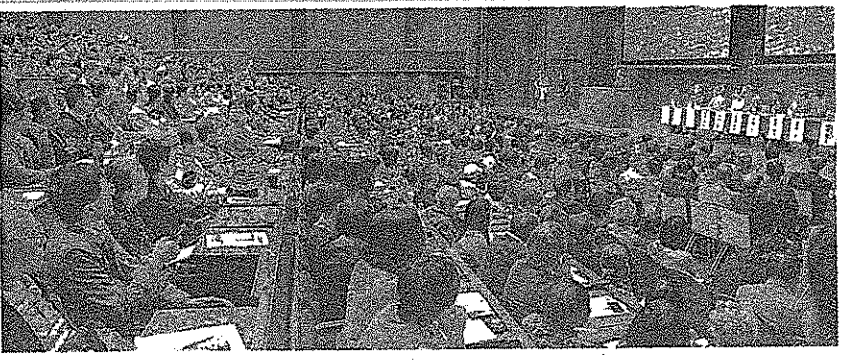
学者と学生の発言を聞くシンポジウム参加者25日、東京都千代田区

## 学者と学生がシンポ開く



9/26  
43

東京都千代田区の法政大学で25日、安全保障関連法（戦争法）に反対する学者と学生が開いたシンポジウム「岐路に立つ日本の立憲主義・民主主義・平和主義 大学人の使命と責任を問う」が、4人の研究者・学生が基調報告し、6氏がショートスピーチに立ちました。



戦争法に反対する学者と学生によるシンポジウム（25日）東京千代田区

# 戦争法反対 学者と学生のシンポ 4氏の報告

専修大教授 広渡清吾さん



前日本学術会議会長で専修大学教授の広渡清吾さんは「安保関連法案を成立させられた悔しさを糧にして、新しいたがいの意思統一ができれば、うれし」と意気込みを語りました。  
安保法制成立のもので憲法9条、平和主義を擁護するため、▽新安保法制の実効を阻止し、法制自体を廃止し、閣議決定を取り消

東大名義教授 樋口陽一さん



東京大学名誉教授の樋口陽一さんは「立憲主義・民主主義・平和主義は予定調和するものではないが、戦後70年間、ともかくも日本で三つの価値が追求された。それを支えたのは憲法」だと指摘しました。安倍首相が憲法への組織的な攻撃を繰り返してきたことをあげ、「安倍首相がいかに法の支配」とは、自分たちの都合のいい法で

## 市民による大改革を

「憲法9条に託された約束と希望は新しい世代に受け継がれていっている」と語り、9条を戦後100年までつなぐために、市民による戦後をはじめの大改革を進めていきたい」と結びました。  
「憲法9条に託された約束と希望は新しい世代に受け継がれていっている」と語り、9条を戦後100年までつなぐために、市民による戦後をはじめの大改革を進めていきたい」と結びました。

## 一人ひとり誇り持ち

人々を支配しようとするもので、無法な人治国家への逆戻りだ」と批判し、「知の遺産が危ういというのが、人々の共通した思いだ」とのべました。  
重大な選択がなされようとしているとき、「それは危ない道だ」と声を発する義務が専門家にはあるとし、専門家の「専門知」に対して市民一人ひとりの知が向き合っていることを強調。「市民知と専門知の担い手が辱めを受けてはならぬ。国民的な心」と若者たちが声をあげた。一人ひとりが誇りを持ち、「一人ひとりが誇りを持ち」と呼びかけました。

# 知の共闘

## 野党の協力で変わる

「野党になったのは、学内で自己満足的な学説論争をしないからではなく、各分野の前進で、全人類や国民の幸福に寄与したいから」とのべ、今は言論空間が狭まってきている」と話しました。  
「野党になったのは、学内で自己満足的な学説論争をしないからではなく、各分野の前進で、全人類や国民の幸福に寄与したいから」とのべ、今は言論空間が狭まってきている」と話しました。

慶応大名誉教授 小林節さん



「政治性があるから、学問の府としては負けない」という理屈だが、政治学であれ、経済学であれ、最後には政治を評価しないとやっていけない。これは大学人として自己矛盾だと指摘しました。  
来年の参院議員選挙に関わって、「選挙制度のせいでは自民党は、4割の支持で7割の議席を占めている。今は空気が変わっている。誠実に野党が協力すれば、議席を取り返せることができる。そうすれば、すべてが変わる。戦争法を廃止できるし、言論空間も変わる」と語りました。

## 私たちは無力でない

「希望も語れなくなったら本道の終わりです。だから私は明日からも路上に立ちながら、大いに理想を語りましょ」と訴えました。  
「希望も語れなくなったら本道の終わりです。だから私は明日からも路上に立ちながら、大いに理想を語りましょ」と訴えました。

# 希望継ぐ

「希望も語れなくなったら本道の終わりです。だから私は明日からも路上に立ちながら、大いに理想を語りましょ」と訴えました。

### 新しい政治文化 ■ 仲間とつながった ■ 軍事共同に反対 ■ 沖縄のように団結

6氏がスピーチ  
とにもたまたか仲間とつながり、社会に思いを表明できる場が東北にも生まれ、他の活動をする人々ともつながりました。  
若者が政治について声をあげる動きは全国各地に広がるべきものと確信しています」と話しました。  
名古屋大学名誉教授の池内了さんは「安保法制とともに軍事共同が進んできた」と指摘。「軍事研究が進むと大学の自治や学問の自由が破壊されていきついでと話ししました。  
立教大学名誉教授の栗原彬さんは「安保法制によって憲法9条の本丸に手がかかっている。辺野古も原発再稼働も個別の問題ではなく関連しています」として、安倍政権の危険性を指摘。「それに異議の声をあげ続けなければならぬ」と語りました。  
日本弁護士連合会憲法問題対策本部長代行の山岸良太弁護士は、弁護士法1条で基本的人権擁護と社会正義を表現することが弁護士の使命であると明記されていると紹介。今後は大学人とも連携し、弁護士会や安保法制に対して連帯訴訟を検討していると話ししました。